

今回西表島で出会った生物の中で、一番うれしかったのはヤエヤマオオコウモリかもしれない。現地では特別珍しい生き物というわけではないのだけど、なぜか縁がなくて今まで一度も見たことがなかった。前回西表島に行った時（2019年）も、生徒たちはオオコウモリを見ているのだが、ちょうど体調を崩した生徒の対応をしていたところだったので、ぼくとその子だけがオオコウモリを見れなかった（ちゃんと教員としての仕事をしているのだよ、こう見えて）。そして今回の西表島でも、夜に琉球大のワタナベ先生が生徒たちの案内をしてくれていた時、ちょうど用があって短時間その場から離れていた。そのタイミングで、ワタナベ先生がオオコウモリを見れる場所を案内してくれていたのだ。うう…仕方ないのだが、悔しい…。つくづくオオコウモリとの相性が悪いなあ…。

そんな残念な思いをした日の夜、宿に帰る道をみんなで歩いていると、巨大な何かが空を飛んでいるのが見えた。で、でかい！プテラノドンみたいだ！オオコウモリってこんなにでかいのかあ！ついに会うことができた。「うおおお！オオコウモリいるじゃん！すごいー！」と一人で騒いでいたら、ルイは「そうですね、さっき見ましたよ。」と塩対応。そうか、みんなはもう見てるんだった。一人で興奮してちょっと恥ずかしい。ただ、念願のオオコウモリを見てとても嬉しい。

ムササビやヒヨケザルのように、「滑空」する生き物はいくつかいるが、完全な「飛行」を行えるのはこの世に鳥とコウモリしかない。哺乳類では唯一の存在だ。そう考えるとコウモリってすごい。さらに、学校周辺でも見られるアブラコウモリなどの「小翼手類」と、南の島にいるオオコウモリ（「大翼手類」）は、コウモリ界でも“別物”扱いで、体の大きさ以外にも多くの点で違いがある（体の構造、食性、超音波を使うかどうか、など）。昔は「小翼手類と大翼手類は全然違う生き物から進化してきた全くの別グループだ」という説があったぐらいだ。

ようやく出会えたのは嬉しかったのだが、このサイズの生き物が夜に頭上を飛んでいるというのを目の当たりにすると、ちょっと怖くなった。それ以降、西表の夜道を歩いていると上空からオオコウモリが忍び寄ってきているんじゃないかと何度も空を確認するようになってしまった。



ぶら下がってこちらを見ているヤエヤマオオコウモリ

耳が短いので木に止まって翼を畳んでいる姿を遠目に見ると、サルっぽく見えてくる。実際、オオコウモリの仲間を霊長目（サル目）とする説も昔はあったようだ。

普通のコウモリの多くは肉食で昆虫などを食べるが、オオコウモリの仲間は果実などを食べる。それもサルっぽい。



猿江公園のアブラコウモリ（小翼手類） 翼開帳20cm

2021年6月22日
夕方になると学校周辺をよく飛んでいる（Vol.32参照）。右の写真とほぼ同スケールで並べてみた。ヤエヤマオオコウモリの巨大さがよく分かる。



西表島のヤエヤマオオコウモリ（クビワオオコウモリ八重山亜種）（大翼手類）

7月28日 西表島
翼を広げると80cmほどある。非常に大きなコウモリで、頭上を飛ぶとバサッバサッと音が聞こえる。超音波を用いたエコーロケーションを行わず、視覚に頼っているため、アブラコウモリなどより眼が大きく耳が小さい。鼻先が伸びていてキツネのような顔なので、オオコウモリの仲間はFlying Foxと呼ばれる。尾は短く、両足の間の膜は発達していない。